

令和4年度高教研保健体育部会資料

体育における評価規準を 作成する際の手順について

「指導と評価の一体化」のための高等学校の学習評価

令和4年8月17日(水)

県教育庁スポーツ健康課
指導主事 伊藤 良太



1

本日の内容

1 学習指導要領の趣旨について

- ・保健体育において育成を目指す三つの資質・能力
- ・12年間の系統性を踏まえた指導内容の見直し
- ・運動やスポーツとの多様な関わり方を重視

2 体育の単元評価計画の作成について

- ・指導と評価の一体化の実現

2

本日の内容

1 学習指導要領の趣旨について

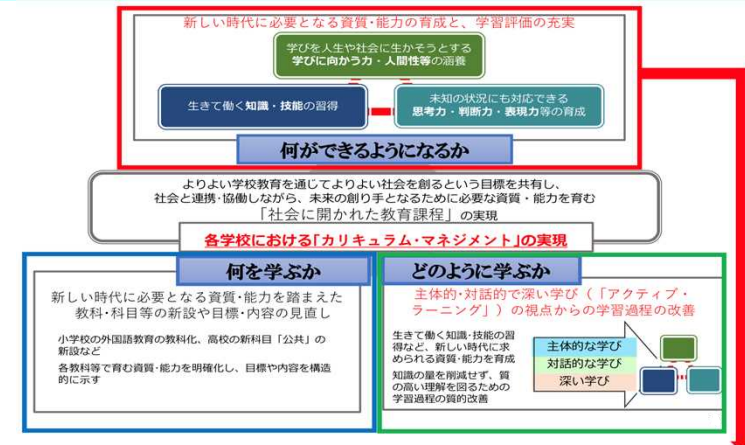
- ・保健体育において育成を目指す三つの資質・能力
- ・12年間の系統性を踏まえた指導内容の見直し
- ・運動やスポーツとの多様な関わり方を重視

2 体育の単元評価計画の作成について

- ・指導と評価の一体化の実現

3

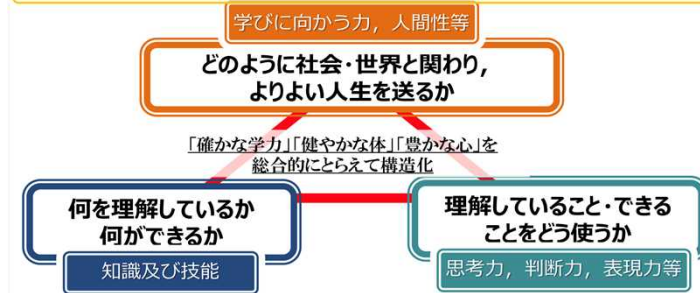
学習指導要領の全体構造



育成を目指す資質・能力の三つの柱

学校教育法第30条第2項が定めるいわゆる学力の三要素（知識及び技能、思考力、判断力、表現力等）「主体的に学習に取り組んで課題を解決するために必要な能力」を「主体的に学習に取り組んで課題を解決するために必要な能力」としながら、学習する子供の視点に立ち、**育成を目指す資質・能力の整理**。

何ができるようになるか

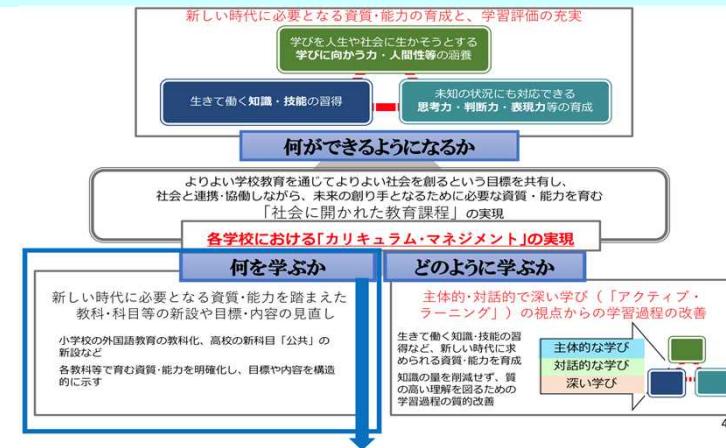


【参考】学校教育法第30条第2項

（略）生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない。

5

学習指導要領の全体構造



6

高等学校体育「内容及び内容の取扱いの改善」の主なポイント

〈全体〉

○資質・能力の三つの柱を踏まえた内容構造の見直し

○小学校から高等学校まで12年間の系統性を踏まえた指導内容の見直し

○運動やスポーツとの多様な関わり方を重視した内容及び内容の取り扱いの充実

- ・新たに共生の視点を踏まえた指導内容を示した
- ・男女共習を原則とすることを示した
- ・生徒の困難さに応じた配慮の例を示した
- ・生徒が選択して履修できるようにすることを示した

何を学ぶか

7

高等学校体育「内容及び内容の取扱いの改善」の主なポイント

〈全体〉

○資質・能力の三つの柱を踏まえた内容構造の見直し

○小学校から高等学校まで12年間の系統性を踏まえた指導内容の見直し

○運動やスポーツとの多様な関わり方を重視した内容及び内容の取り扱いの充実

- ・新たに共生の視点を踏まえた指導内容を示した
- ・男女共習を原則とすることを示した
- ・生徒の困難さに応じた配慮の例を示した
- ・生徒が選択して履修できるようにすることを示した

何を学ぶか

8

思考力、判断力、表現力等の系統性(指導内容の明確化)

	中学校1年・2年	中学校3年・高校入学年次	高校その次の年次以降
学習指導要領	自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己(や仲間)の考えたことを他者に伝えること	自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己(や仲間)の考えたことを他者に伝えること	生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること
体の動かし方や行い方	・課題や出来映えを伝える ・自己の課題に応じて練習方法を選ぶ	・合理的な動きと比較して成果や改善すべきポイントと理由を伝える ・自己や仲間の課題や練習方法について伝える	・動きを分析して良い点や修正点を指摘する ・課題解決のための練習の計画を立てる ・課題解決の過程を踏まえて新たな課題を発見する
体力や健康・安全	・安全上の留意点を他の学習場面に当てはめ、伝える	・体調や環境に応じた適切な練習方法等について振り返る ・運動に必要な準備運動や自己が取り組む補助運動を選ぶ	・危険を回避するための活動の仕方を提案する
運動実践につながる態度	・最善を尽くす(伝統的な所作)などのよい取組を見付け、伝える ・分担した役割に応じた活動の仕方を見付ける ・提示された仕方に当てはめ、関わり方を見付ける ・違いを踏まえて楽しむ方法を見付け、伝える	・よりよいマナーや行為(所作)について自己の活動を振り返る ・分担した役割の成果などについて自己の活動を振り返る ・合意形成するための関わり方を見付け、伝える ・違いに配慮して楽しむ活動の方法や修正の仕方を見付ける ・運動を継続して楽しむための関わり方を見付ける	・よりよいルールやマナー(所作)について提案する ・状況に応じて役割を提案する ・合意を形成するための調整の仕方を見付ける ・違いを踏まえて楽しむための調整の仕方を見付ける ・生涯にわたって楽しむための関わり方を見付ける
生涯スポーツの設計			

高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 保健体育・体育編

13

学びに向かう力、人間性等の指導内容

各教科の内容については、内容の、まとまりごとに、生徒が身に付けることが期待される資質・能力の三つの柱に沿って示すこととしているが、特に「学びに向かう力、人間性等」については、目標において全体としてまとめて示し、内容のまとまりごとに指導内容を示さないことを基本としている。しかし、「**体育**」においては、**豊かなスポーツライフを継続することを重視し、従前より「態度」を内容として示していることから、内容のまとまりごとに「学びに向かう力、人間性等」に対応した指導内容を示すこととした。**

(高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 保健体育編)

学びに向かう力、人間性等については、各領域において**愛好的態度及び健康・安全**は共通の事項とし、**公正(伝統的な行動の仕方)、協力、責任、参画、共生**の中から、各領域で取り上げることが効果的な指導内容を重点化して示している。

(高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 保健体育編)

学びに向かう力、人間性等(指導内容の重点化)

	体づくり運動	器械運動	陸上競技	水泳	球技	武道	ダンス
愛好的態度	○	○	○	○	○	○	○
公正・伝統的			○	○	○	○	
協力	○	○	▲	▲	○	▲	○
責任	▲	▲	○	○	▲	○	▲
参画	○				○		○
共生	○	○	○	○	○	○	○
健康・安全	○	○	○	○	○	○	○

(▲は、などの例)

15

学びに向かう力、人間性等の系統性(指導内容の明確化)

指導事項	中学校1年・2年	中学校3年・高校入学年次	高校その次の年次以降
ア 共通事項	積極的に取り組もうとする	自主的に取り組もうとする	主体的に取り組もうとする
イ 公正	勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとする	勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする	
	フェアなプレイを守ろうとする	フェアなプレイを大切にしようとする	
ウ 協力・責任	相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとする	相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとする	
	よい演技を認めようとする	よい演技を讃えようとする	
エ 参画・共生	仲間の学習を援助しようとする	互いに助け合い教え合おうとする	互いに助け合い高め合おうとする
	分担した役割を果たそうとする	自己の責任を果たそうとする	役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとする
オ 健康・安全	話合いに参加しようとする	話合いに貢献しようとする	合意形成に貢献しようとする
	一人一人の違いを認めようとする	一人一人の違いを大切にしようとする	
	健康・安全に気を配る	健康・安全を確保する	

高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 保健体育・体育編

16

高等学校体育「内容及び内容の取扱いの改善」の主なポイント

〈全体〉

○資質・能力の三つの柱を踏まえた内容構造の見直し

○小学校から高等学校まで12年間の系統性を踏まえた指導内容の見直し

○運動やスポーツとの多様な関わり方を重視した内容及び内容の取り扱いの充実

- ・新たに共生の視点を踏まえた指導内容を示した
- ・男女共習を原則とすることを示した
- ・生徒の困難さに応じた配慮の例を示した
- ・生徒が選択して履修できるようにすることを示した

何を学ぶか

17

体育科・保健体育科の学習指導要領

- ◆体育科・保健体育科では、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成
- ◆小学校から高等学校までの12年間の系統性、発達段階を踏まえて、4年ごとのまとまりで指導内容を体系化
- ◆小学校から高等学校まで、体育科・保健体育科の授業を1週間で3時間程度実施

各種の運動の基礎を培う時期										多くの領域の学習を経験する時期				卒業後も運動やスポーツに多様な形で関わる事ができるようにする時期			
小学校										中学校				高等学校			
1年生 2年生 3年生 4年生 5年生 6年生 1年生 2年生 3年生 入学年次 次の年次 それ以降																	
運動 領域等	体つくりの運動遊び				体つくり運動		体つくり運動		体つくり運動		体つくり運動		体つくり運動		体つくり運動		
	器械・器具を 使った運動遊び				器械運動		器械運動		器械運動		器械運動		器械運動		器械運動		
	走・跳の運動遊び				走・跳の運動		陸上運動		陸上競技		陸上競技		陸上競技		陸上競技		
	水遊び				水泳運動		水泳運動		水 泳		水 泳		水 泳		水 泳		
	表現リズム遊び				表現運動		表現運動		ダンス		ダンス		ダンス		ダンス		
	ゲーム				ゲーム		ボール運動		球 技		球 技		球 技		球 技		
									武 道		武 道		武 道		武 道		
保 健 領域等					保 健				体育理論		体育理論						
									保 健		保 健						
年間授業 時数等	102時間	105時間	105時間	105時間	90時間	90時間		105時間	105時間	105時間		体育 3年間で7～8単位 保健 1単位 保健 1単位					
必修 選択																	

共生

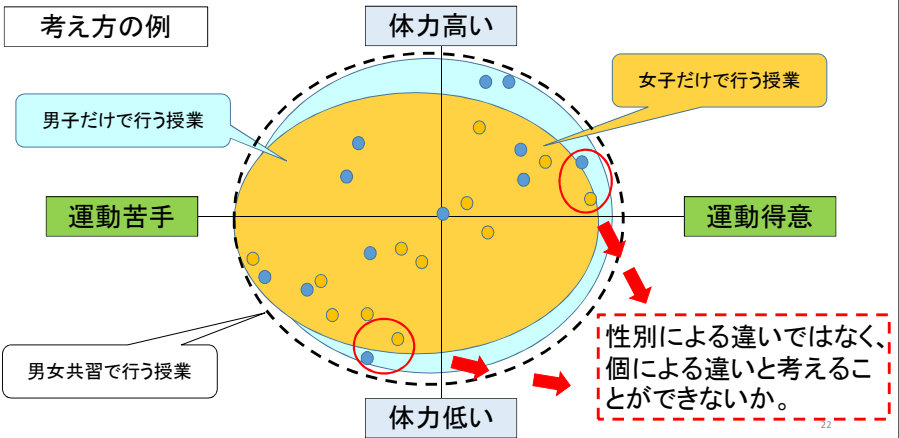
体力や技能の程度及び性別の違い等にかかわらず、仲間とともに学ぶ体験は、生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現に向けた重要な学習の機会であることから、**原則として男女共習**で学習を行うことが求められる。その際、心身ともに発達が著しい時期であることを踏まえ、運動種目によってはペアやグループの編成時に配慮したり、健康・安全に関する指導の充実を図ったりするなど、指導方法の工夫を図ることが大切である。

また、障害の有無等にかかわらず、仲間とともに学ぶ体験は、生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現とともに、**スポーツを通した共生社会の実現**につながる重要な学習の機会であることから、本解説第3章第1節3に示した障害のある生徒などへの指導の内容等を参考に、指導の充実を図ることが大切である。

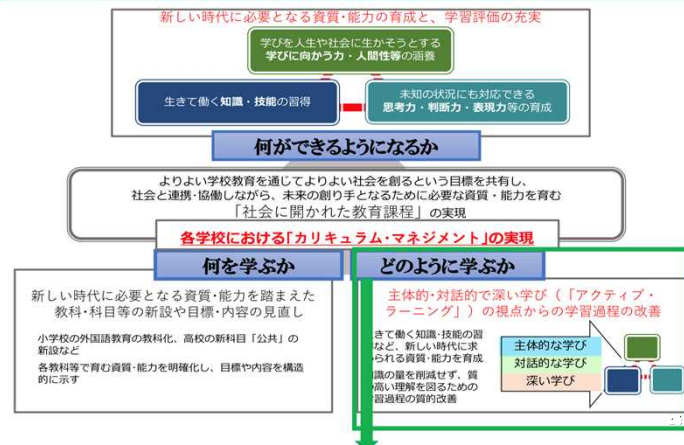
高等学校学習指導要領（平成30年度告示）解説 保健体育編

体育における学び（考え方の例）

考え方の例



学習指導要領の全体構造



23

主体的・対話的で深い学びの実現（「アクティブラーニング」の視点からの授業改善）について（イメージ）

「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行うことで、学校教育における質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的（アクティブ）に学び続けるようにする。

【主体的な学び】の視点

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。

主体的な学び
対話的な学び
深い学び

学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等の涵養

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成

【対話的な学び】の視点

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。

【深い学び】の視点

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え力」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか。

<参考> 審中P. 47～53 小学校学習指導要領解説 第3の1(1) 中学校学習指導要領解説第3の1(1) 高等学校学習指導要領

17

24

本日の内容

1 学習指導要領の趣旨について

- ・保健体育において育成を目指す三つの資質・能力
- ・12年間の系統性を踏まえた指導内容の見直し
- ・運動やスポーツとの多様な関わり方を重視

2 体育の単元評価計画の作成について

- ・指導と評価の一体化の実現

25

「指導と評価の一体化」のための学習に関する参考資料



令和2年3月 小学校・中学校 編 作成

※一部の教科等において誤植を修正し更新(R2.6)

令和3年8月 高等学校編 作成

※一部の教科等において誤植を修正し更新(R3.9)



参考

国立教育政策研究所ホームページ
・トピックス
指導資料・事例集・学習評価に
関する参考資料

26

学習評価とは？

学習評価：学校における教育活動に関し、生徒の学習状況を評価するもの

学習評価を通して

- ・生徒の学習状況を的確に捉える
- ・教師が指導の改善を図る
- ・生徒が自らの学びを振り返って次の学びに向かうことができるようにする

そのため、

学習評価の在り方が極めて重要

27

学習評価について指摘されている課題

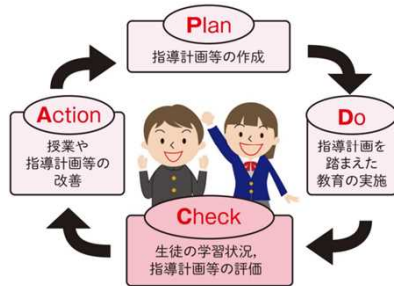
学習評価の現状について、学校や教師の状況によっては、以下のような課題があることが指摘されている。

- ・学期末や学年末などの事後での評価に終始してしまうことが多く、評価の結果が児童生徒の具体的な学習改善につながっていない。
- ・現行の「関心・意欲・態度」の観点について、挙手の回数や毎時間ノートをとっているかなど、性格や行動面の傾向が一時的に表出された場面を捉える評価であるような誤解が払拭できていない。
- ・教師によって評価の方針が異なり、学習改善につなげにくい。
- ・教師が評価のための「記録」に労力を割かれて、指導に注力できない。
- ・相当な労力をかけて記述した指導要録が、次の学年や学校段階において十分に活用されていない。

28

カリキュラム・マネジメントの一環としての指導と評価

「学習指導」と「学習評価」は学校の教育活動の根幹であり、教育課程に基づいて組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図る「カリキュラム・マネジメント」の中核的な役割を担っている。



・特に、「主体的に学習に取り組む態度」の評価に当たっては、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を図る中で適切に評価できるようにしていくことが重要。

29

各単元における「単元の評価規準」設定の手順

【手順1】
内容のまとめごと
に指導内容を
配置する

【手順2】
全ての「単元の
評価規準」を作
成する

【手順3】
「単元の評価規
準」を選択したり、
作成したりするな
どして当該単元
の評価規準を設
定する。

30

内容のまとめごとに指導内容を配置する

〔体育分野 入学年次〕

- A 体づくり運動
- B 器械運動
- C 陸上競技
- D 水泳
- E 球技
- F 武道
- G ダンス
- H 体育理論

(1)スポーツの文化的特性
や現代のスポーツの発展

〔体育分野 入学年次の次の年次以降〕

- A 体づくり運動
 - B 器械運動
 - C 陸上競技
 - D 水泳
 - E 球技
 - F 武道
 - G ダンス
 - H 体育理論
- (2)運動やスポーツの効果的な学習
の仕方
- (3)豊かなスポーツライフの設計の仕方

〔保健分野〕

- (1) 現代社会と健康防
- (2) 安全な社会生活
- (3) 生涯を通じる健康
- (4) 健康を支える環境
づくり

31

内容のまとめごとに指導内容を配置する

【手順1】 内容のまとめごとに指導事項を配置する

参考資料P45

表1：年間指導計画（例）

科目	学年	単元	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
体育	必修	入学年次	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
		その後の年次	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
		その後の年次	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
保健	必修	入学年次	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
		その後の年次	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
		その後の年次	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

32

内容のまとまりごとに指導内容を配置する

【手順1】内容のまとまりごとに指導事項を配置する

参考資料P62

図2 その次の年次及びそれ以降の年次の「B 器械運動」における2年間を見通した指導事項の配置の例

		その次の年次 3領域選択Ⅰ 器械運動選択														それ以降の年次 全領域選択Ⅰ 器械運動選択																
指導事項		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
知識	1.技の名前や行い方																															
	2.体力の高め方	●																														
	3.課題解決の方法																															
	4.発達の仕方																															
○◎権能技能																																
	1.基本的な技を滑らかに安定させて固める																															
	2.条件を変えて固める																															
	3.発展させて一連の動きで固める																															
	○◎はん転技能																															
技能	1.基本的な技を滑らかに安定させて固める																															
	2.条件を変えて固転する																															
	3.発展させて一連の動きで固める																															
	○◎平均立技能																															
マツト運動	1.基本的な技を滑らかに安定させて固める																															
	2.条件を変えて固転する																															
	3.発展させて一連の動きで固める																															
	3.発展させて一連の動きで固める																															

体育科会議で、指導内容の確認、各単元の指導事項の共通化と重点化、評価規準の検討等

33

体育科会議で、指導内容の確認、各単元の指導事項の共通化と重点化、評価規準の検討等

各単元における「単元の評価規準」設定の手順

【手順1】
内容のまとまりご
とに指導内容を
配置する

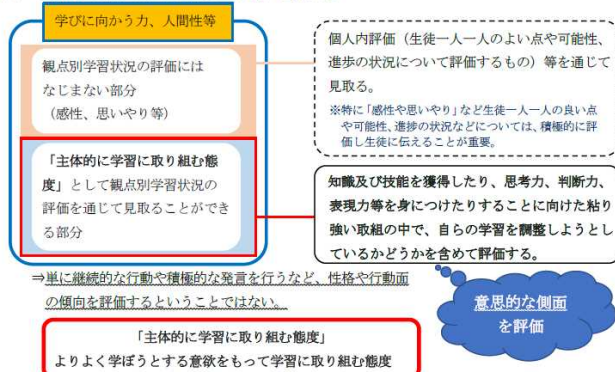
【手順2】
全ての「単元の
評価規準」を作
成する

【手順3】
「単元の評価規
準」を選択したり、
作成したりするな
どして当該単元
の評価規準を設
定する。

34

「主体的に学習に取り組む態度」の評価について

(1)「主体的に学習に取り組む態度」の評価の基本構造



35

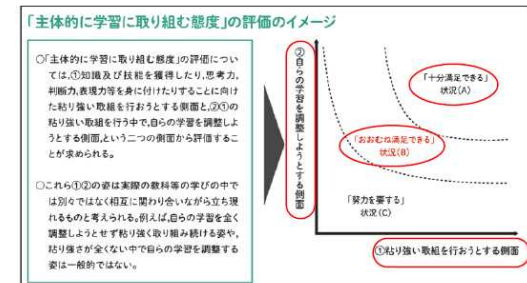
「主体的に学習に取り組む態度」の評価について

(2)「主体的に学習に取り組む態度」の評価方法

- ①知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身につけたりすることに向けた粘り強い取組を行うとする側面。
- ②粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面。

学習評価参考資料P11

図4「主体的に学習に取り組む態度」の評価イメージ



36

「主体的に学習に取り組む態度」の評価について

指導のキーワードと想定される学びの姿の共通理解について

「例えば、協力の場面や行動の仕方の例などの具体的な知識と、なぜ協力するのかといった協力することの意義などの汎用的な知識を関連させて指導することで、生徒自身の主体性を促し、生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現していく資質・能力の育成を図ることが大切である」(解説P.39 参照)

○どのような行動の様子を評価するか(指導のキーワードと想定される学びの姿)をあらかじめ教師間で検討し共通理解を図ること。

⇒学習評価の**信頼性**、**妥当性**を確保することにつながる。

37

「主体的に学習に取り組む態度」の評価について

例)【主体的に学習に取り組む態度】(スポーツVI)

「地域への参画や仲間づくりなどのスポーツを推進及び発展するためのスポーツの価値を高める学習に取り組もうとしている。」

○指導する上でのキーワード

- ①「関わる人を尊重しよう」
- ②「相手の感情に配慮しよう」
- ③「建設的な話し合いを進めよう」

○判断の目安とその様相(例)

学習ノートの記載と発言の様子から

38

「主体的に学習に取り組む態度」の評価について

実現状況	判断の目安	想定される様相
十分満足 (A)	地域への参画や仲間づくりなどのスポーツを推進及び発展するためのスポーツ価値を高める学習に意欲的に取り組もうとしている。	地域への参画や仲間づくり ・相手の感情に配慮した、適切で丁寧な言葉遣いができる。 ・相手の理解が困難な際に、端的に説明し直したり、言葉をえらんだりすることができる。 ・傾聴の意味を理解し、受容や同意を返すことができる。 ⇒2つ以上の姿を見取ることができて(A)
おおむね満足 (B)	地域への参画や仲間づくりなどのスポーツを推進及び発展するためのスポーツ価値を高める学習に取り組もうとしている。	地域への参画や仲間づくり ・話し合いに参加している。 ・相手に端的な説明ができる。 ・同調する相槌を打つことができる。 ⇒2つ以上の姿を見取ることができて(B)

39